



# 学校だより

9月号(第525号)  
令和元年8月30日  
横浜市立すみれが丘小学校

## 学校教育目標

〈すすんで みんなで れいをつくして がんばりつづけて おもいあって かがやきつづける すみれっ子〉  
～豊かな人間関係の中で、一人ひとりが自分のよさを十分に発揮し、互いに高め合う子を育てます～

## 「束」になることでパワーアップしていくすみれっ子の教育

校長 吉田 茂樹



今年の夏休みは、猛暑に加え、天候不順な日が続きましたが、子どもたちは、無事に夏休み明けの授業を迎えることができました。夏休みの感想を聞くとそれぞれに何かをやり遂げたり、思い出に残る体験をしたりして充実した生活を送ったことが伺えました。

さて、私は、高校野球ファンで、今年の夏も多くの感動をもらいました。特に神奈川大会では、県立相模原高校が、夏の大会4連覇を目指す強豪横浜高校に勝利し、準決勝に進出したことは、たいへんな驚きでした。公立校では、22年前の横浜商業高校戦以来の勝利となるそうで、横浜高校の強さが際立っているといえます。



勝因は、いろいろあると思いますが、特に印象に残ったのが、当野球部のモットーである「束になって戦う」ということです。よく「チーム一丸となって」という意味で使われますが、ここでの「束になって」は、登録選手はもちろん、ベンチ入りできなかった部員、野球部保護者会、応援部・吹奏楽部ほか野球部にかかわってくれている方たちみんなで束になるということです。選手以外の部員たちが、対戦相手の投手であれば球種・配球・癖などを、攻撃面では、各打者の得意・不得意の球種やコース、打球の飛ぶ方向までデータを分析し、事前に選手に伝えていたそうです。各打者の一球一球の読みや相手打者に応じた守備の位置取りなどに繋がったといえます。また、保護者会は、雨天練習場や外野のネット整備など予算のない中を手作りによって練習環境をつくり上げていったそうです。「環境が人をつくる」という言葉も当校の監督がよく使っている言葉です。そして、応援が何よりも選手に勇気を与えるということに加えて、大観衆の声援や対戦相手の大応援に臆することがないように学校の応援体制にも協力を得ていたということです。選手たちはここから、チームにかかわってくれているすべての人のために感謝の気持ちをもって勝利に向けて戦ったと話していました。(因みに当校は昨年も夏ベスト8入りし、準々決勝で東海大相模高校を9回表までリードしていましたが、その原動力となったエースで強打者の選手は、本校の卒業生です。)

本校の教育においてもPTA、保護者、地域、学校関係機関など多くの子どもたちの教育に対する熱い思いが重なって力をいただき、束となることで大きな成果を上げているのだと強く感じました。感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。